

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅲ-B(地域精神看護実習)	2	前期	2	実習 90時間
担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美			
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅲ-Bは、地域精神看護に焦点を当てる。 ☆学生は、サブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-Aか実習Ⅲ-Bのどちらかを選択する。			
到達目標	安定した地域生活を目指し、患者のセルフケアやストレスを査定して直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、実施した看護介入を評価する。さらに受け持ちケースを中心に、コンサルテーション、調整(多職種連携)、倫理調整等を実施し、より専門的な高度看護実践能力を習得する。			
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ。実習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三芳野会を利用し、三芳病院へ通院する患者1～2名程度受け持ち、安定した地域支援を目指して、患者のセルフケア能力やストレスを査定しながら、直接的看護介入を展開するとともに、多職種連携を実践する。</li> <li>2. カンファレンスを実施し、多職種チームからケアに対する評価を得るとともに、保健・医療・福祉チームの調整・連携を行う。</li> <li>3. 提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者からスーパービジョンを受け、看護介入の効果を評価し、課題を明らかにする。</li> <li>4. 実習期間内に、訪問看護への同行訪問、デイケア見学参加、必要に応じて外来実習などを行い、病院と地域との連携の実際について学ぶとともに、組織・地域の課題を明らかにする。</li> <li>5. 学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。</li> </ol> <p>*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。</p>			
教科書	特に指定せず。			
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.			
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。			
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと(1時間程度)。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後に向けての課題を明らかにすること(2時間程度)。			
備考	授業場所：三芳病院 三芳野会 実習場所：三芳病院 三芳野会(安房地域生活支援センター・グループホームみよしの・三芳ワークセンター・まほろば) 実習期間：原則として、11月の2週間(4日/週×2週間：8日間)1限～4限			